

平成23年度 中央大学学術研究奨励賞

経済学部准教授 千葉 謙悟
著書『中国語における東西言語文化交流』（三省堂、2010年）
▶第19回租税資料館賞 2011年12月18日 金田一京助博士記念会
上記著書は、中国語音韻論・諸方言、西洋諸言語及び歴史文献に関する幅広い知識を駆使し、近代中国における西洋の地名、人名、概念等の翻訳語の創造と伝播の過程を緻密に分析した力作であり、中国語学の領域でのすぐれた専門研究であるにとどまらず、ことばの面から東西の文化交流史を鮮やかに描き出した研究書である。本書は学界で高く評価され、日本及び周辺諸民族の言語、文化についての研究で一年間に出版された特に優れた著書に与えられる金田一京助博士記念賞を受賞した。
理工学部教授 上村 慎治
Zool.Sci.27:279-284.(2010) Single-Cell Electroporation of Fluorescent Probes into Sea Urchin Sperm Cells and Subsequent FRAP Analysis. Takao,D.andKamimura,S.
▶動物学会論文賞（藤井賞） 2011年9月22日 社団法人日本動物学会
日本動物学会は、基礎的な動物科学の分野をサポートしてきた国内でもっとも長い歴史（130年）ある学術団体の1つである。この学会は、毎年、出版した国際誌（Zoological Science）の中から分野ごとに優れた論文を表彰しているが、2011年度の論文賞（基金寄付者の故藤井良三博士の名前に由来する藤井賞と同じ）上記の論文業績が動物生理学部門で選出された。
理工学部教授 庄司 裕子
「飽き」という主観的な評価の過程を、類似した刺激の連続に対する主観的な評価の低減という観点からモデル化し、その有効性を示した。
▶日本感性工学会論文賞 2011年9月3日 日本感性工学会
候補者は、飽き（マンネリ感）という主観的な評価の過程を、「類似した刺激の連続に対する主観的な低減」という観点からモデル化した。そして、評価実験を通じてモデルの妥当性を示した。本研究の成果は、継続的に利用しても飽きない情報推薦システムや情報サービスの実現に向けて有用な知見として高く評価され、日本感性工学会より論文賞を受賞した。今後さらなる研究の発展が期待される。
理工学部助教 鳥海 重喜
オペレーションズ・リサーチ誌55巻6号に掲載された論文「海上航路ネットワークを用いたコンテナ船の運航パターン分析」
▶第31回事例研究賞 2011年9月16日 社団法人日本オペレーションズ・リサーチ学会
本研究は、全世界を対象として、コンテナ船の運航パターンを分析し、社会情勢や地球環境等が変化した際のコンテナ船航路への影響を評価している。具体的には、ソマリア沖の海賊を回避するための迂回や北極海航路の活用による短縮効果など近年注目されている事例に取り組み、大きな成果を上げている。本研究の成果の一部は、日本経済新聞にも取り上げられており、社会的に広く影響を与えている。

理工学部准教授 中村 太郎
ミミズの移動手法を規範とした蠕動運動型移動機構の開発とその応用の研究により文部科学省から文部科学大臣若手科学者賞を受賞した。
▶文部科学大臣表彰若手科学者賞 2011年4月18日 文部科学省
候補者が受賞した文部科学大臣表彰若手科学者賞は、萌芽的な研究、独創的視点に立った研究等、高度な研究開発能力を示す顕著な研究業績をあげた40歳未満の若手研究者を対象に贈られる賞である。候補者は、ミミズの移動手法を規範とした蠕動運動型移動機構の開発とその応用に関する研究が、独創性、新規性、発展性、産業界社会への貢献度において、特に優秀であると認められ本受賞に至った。本賞は私立大学の受賞が少ない中においての受賞であり、中央大学の名声を高めるばかりでなく、世界をリードする日本のロボット界において、高い評価を得るものである。
理工学部教授 松井 知己
ゲーム理論における古典的な問題である安定結婚問題において、長年未解決であった均衡点判定問題に対し、多項式時間可解性を示した。
▶第1回研究賞 2011年9月16日 社団法人日本オペレーションズ・リサーチ学会
安定結婚問題は、1962年に提案された、ゲーム理論における古典的な問題である。安定結婚問題においてプレイヤーが虚偽の申告をした際の均衡点判定問題は、長年未解決の問題であった。被推薦者は、この問題が多項式時間で解けることを初めて示した。また他にも、多重彩色問題、多次元割当問題、理想サンプリング法について、近年重要な結果を挙げており、これらの結果に対し、日本OR学会より研究賞を授与されている。
総合政策学部教授 服部 龍二
日中正常化の政治過程を史料に基づき丹念に跡付け、現代における諸課題の源流を解明し、関わった人々の人間像を描きだすことで、歴史的事業とリーダーシップの相補性を論証した。
▶第23回アジア・太平洋賞特別賞 2011年11月14日 毎日新聞社、社団法人アジア調査会
著書「日中国交正常化―田中角栄、大平正芳、官僚たちの挑戦」（中央公論新社、2011年）で毎日新聞社・（社）アジア調査会主催の「アジア・太平洋賞特別賞」という高い評価を受け、現代史の分野において多大な貢献をした。激しく変化する時代にあって時代を見つめる慧眼は歴史に根ざして育てられることを具体的に示した仕事である。現代史に関わる服部先生の多くの著作はすでに専門家から高く評価されており現代史の旗手として囑望されている。

第25回 渋谷健一奨励賞

本賞は、渋谷健一先生（元本学理事長）の本学創立100周年を記念した奨励基金により、有為な人材の育成に資することを目的に、本学に在学する学生のうち、学術、文化、体育等の活動を通じて卓越した成果を収めた者（団体を含む）を対象に授与するものです。

—学術・文化の分野—

FLPジャーナリズムプログラム松野良一ゼミ FLP（ファカルティリンケージ・プログラム）
①大韓航空機007便墜落事件の遺族の証言を記録し特集として刊行し（中央評論277号）、読売新聞、東京新聞などの新聞において、その活動が紹介された。 ②ドキュメンタリー「硫黄島から戻ったイチョウ」を制作し、第31回「地方の時代」映像祭において、市民・学生・自治体部門優秀賞を受賞するなど、複数のコンテストで入賞した。
精密機械工学研究部 校友会理工連盟
①HONDA エコマイレージチャレンジ2011全国大会において、同部のエコランマシンが412チーム中1チームのみが選出されるデザイン賞を受賞した。 ②KHK杯2011ロボット大会において、同部のロボットが100チーム中5チームのみが選出される特別賞を受賞した。
菊池 大輔 大学院文学研究科博士課程前期課程
国内最高レベルのフランス語コンクールである、公益財団法人日仏会館主催2011年度フランス語コンクールにおいて、優秀賞（ケベック州政府賞）に入賞した。
宮坂 新 大学院文学研究科博士課程後期課程
「江戸周辺地域の変容と幕府広域支配の研究」によって、徳川奨励賞を受賞した。同賞は、財団法人徳川記念財団が今後活躍が期待される若手研究者を選んで授賞するものである。
小島 智春 大学院理工学研究科博士課程前期課程
①第7回超臨界流体に関する国際会議において、Best Poster賞を受賞した。 ②修士論文作成のための研究成果の一部を特許出願し、1年後に実施例の追加申請を行った。ポリカーボネートの新規なケミカルリサイクル法として、アミン添加熱水を用いた解重合法を開発した。これは、比較的温和な条件下で、ほぼ理論収率近くの高いモノマー収率を得るだけでなく、アミンが高分子との中間生成体を経て、熱水により再び加水分解され、アミンに戻り、理論上消費されない。この新規性のために特許出願し、成果の一部を国際会議で発表し、学術的にも高い評価を得た。
牧田 純弥 大学院理工学研究科博士課程前期課程
日本オペレーションズ・リサーチ学会「計算と最適化の新展開」研究部会において、優秀発表賞を受賞した。学部卒業研究において、与えられた画像を正方形ピースに分解し並べ替えて、所与の目標画像に近いものを構築する最適化問題を扱った。さらに、構築した画像のピースをスライドさせるブロックパズルを解くことで、元の画像に戻すエンターテインメント性の高い画像再構築手法を提案している。

篠永 崇史 大学院理工学研究科博士課程前期課程

研究と実務融合による高度情報セキュリティ人材育成プログラムにおいて、研究奨励賞を受賞した。複数のバイオメトリクス認証システムを利用したマルチバイオメトリクス認証システムにおいて、セキュリティ上の脆弱性を指摘するとともに、その脆弱性を克服する方法の指針を示した。上記の賞は、ISSスクエアシンポジウムにおいて、連携大学、連携企業からの22名の選定委員によって選ばれ、4名に対して授与される賞である。

—体育の分野—

陸上競技部 校友会体育連盟
第80回 日本学生陸上競技対校選手権大会（インカレ） 男子4×100mリレー 優勝・男子4×400mリレー 優勝（2連覇） ※同大会において男子4×100mリレーと、男子4×400mリレーとの優勝は、本学史上50年振り 第95回 日本陸上競技選手権リレー競技大会 男子4×100mリレー優勝・男子4×400mリレー優勝（大会新記録） ※リレー2種目制覇は本学史上57年振り、大会史上30年振り
準硬式野球部 校友会体育連盟
第63回 全日本大学準硬式野球選手権大会（インカレ）優勝
スケート部 校友会体育連盟
第84回 日本学生氷上競技選手権大会（インカレ）優勝 ※創部以来の初優勝
水泳部 校友会体育連盟
第87回 日本学生選手権水泳競技大会（インカレ） 男子総合優勝・男子400mリレー優勝（2連覇）
飯塚 翔太 法学部2年（陸上競技部）
第80回 日本学生陸上競技対校選手権大会（インカレ） 男子200m 優勝
川面 聡大 法学部4年（陸上競技部）
第13回 IAAF 世界陸上競技選手権大会 日本代表 第19回 アジア陸上競技選手権大会 兵庫・神戸大会 男子4×100mリレー 優勝
塩浦 慎理 法学部2年（水泳部）
第26回 ユニバーシアード競技大会 男子4×100mメドレーリレー 優勝・ 男子50m自由形3位・男子100m自由形3位 第87回 日本学生選手権水泳競技大会（インカレ） 男子50m自由形 優勝（日本タイ記録）
瀧口 陽平 法学部1年（水泳部）
国際水泳連盟（FINA）競泳ワールドカップ東京2011 男子1500m自由形 優勝
野沢 拓矢 経済学部4年（水泳部）
第87回 日本学生選手権水泳競技大会（インカレ） 男子200m バタフライ 優勝
大岩 一貴 経済学部4年（サッカー部）
第26回 ユニバーシアード競技大会優勝 上記の他、U-23 日本代表に選出

六平 光成	経済学部3年(サッカー部)
第26回ユニバーシアード競技大会優勝	

第19回 三重野康・高木友之助記念学術奨励賞

本賞は、三重野康元日本銀行総裁及び高木友之助元総長の篤志を尊重し、有為な人材の育成に資することを目的として、学部学生のうち、経済、金融、政策等の諸科学の分野で、卓越した成果を収めた者に授与するものです。

吉田 綾那	商学部 4年
卒業論文「医薬品産業における知的財産戦略—特許の保護範囲と製品売上高を用いた実証分析—」 学部生の論文として、きわめて高い水準にあるだけでなく、多大な労力を費やしてデータを整理し、また、学生ならではの斬新な視点から独自の検証を試みた点も高く評価できる。	

第17回 船木勝馬学術奨励賞

本賞は、船木勝馬氏の篤志を尊重し有為な人材の育成に資することを目的として、アジア諸国・地域からの留学生を対象とし、卒業論文、修士論文又は研究論文が、優秀と認められた者に授与するものです。

張 毅来	大学院経済学研究科博士課程後期課程
博士論文「東アジア通貨金融協力と中国」 博士前期課程・後期課程において着実に研究を積み重ねて完成させた博士學位論文は、論文内容が高く評価されただけでなく中国においても高い評価を得ている。	

第17回 水野富久司スポーツ奨励賞

本賞は、水野富久司氏の篤志を尊重し、スポーツ振興の支援体制の一環として陸上競技部選手の育成に資することを目的として、陸上競技部に所属する学生のうち、長距離選手として優秀な成績を収めた者に授与するものです。

棟方 雄己	法学部 4年(陸上競技部)
第80回 日本学生陸上競技対校選手権大会 5000m 6位 第43回 全日本大学駅伝対校選手権大会 8区 6位 第88回 東京箱根間往復大学駅伝競走 2区 4位	
代田 修平	経済学部 2年(陸上競技部)
第90回 関東学生陸上競技対校選手権大会 3000m 障害 3位 第80回 日本学生陸上競技対校選手権大会 3000m 障害 5位 第23回 出雲全日本大学選抜駅伝競走 2区 5位 第43回 全日本大学駅伝対校選手権大会 3区 6位 第88回 東京箱根間往復大学駅伝競走 6区 3位	

第15回 瀧野秀雄学術奨励賞

本賞は、瀧野秀雄氏の篤志を尊重し、少壮気鋭の研究者の研究活動を奨励することを目的として、本学准教授、助教若しくは専任講師又は大学院に在籍する学生であって、産業や技術開発の国際化にともなう知的財産権に関する研究論文が優秀と認められた者に授与するものです。

富田 大樹	大学院理工学研究科博士課程前期課程
研究論文「(ヘモグロビン/アルブミン)ヘテロクラスターの合成、構造と酸素結合」本研究は、人工酸素運搬体(赤血球代替物)の開発に新たな突破口を開くものであり、先端医療はもちろん、人類の健康・福祉に与える波及効果と意義はきわめて大きく、理工学領域や国内外の薬学・医学の分野から新物質・新医薬として注目されている。なお本研究は、日本特許出願及び国際特許出願済である。	

第15回 茨木龍雄学術奨励賞

本賞は、茨木龍雄氏の篤志を尊重し、土木工学の分野における有為な人材の育成に資することを目的として、理工学部土木工学科(都市環境学科)及び大学院理工学研究科土木工学専攻に在籍する学生であって、土木工学に関する研究及び人物がともに優秀と認められた者に授与するものです。

田方 俊輔	大学院理工学研究科博士課程前期課程
修士論文「高波浪時における汀線付近の長周期波の反射率と地形変化の関係」の作成および審査会での発表において優秀な成果をあげた。また関連するテーマで土木学会論文集 B2(海岸)に2編の論文を発表するなど積極的な活動を行っている。	
中井 隆亮	大学院理工学研究科博士課程前期課程
修士論文「三調節池による洪水調節を含んだ洪水流解析と渡良瀬遊水地の洪水調節機能の評価法に関する研究」をはじめとして、学術論文を5編投稿し発表を行ったほか、現在も2編の論文を執筆中である。また水理研究会での研究発表など学業や研究に対する前向きな姿勢は他の見本となるものである。	

第15回 久保田昭夫女子スポーツ奨励賞

本賞は、久保田昭夫氏の篤志を尊重し、スポーツ振興の支援体制の一環として女子選手の育成に資することを目的として、学友会体育連盟の部会に所属する女子学生であって、選手として優秀な成績を収めた者に授与するものです。

根本理世	文学部 3年(女子卓球部)
第78回 全日本大学総合卓球選手権大会(個人の部) 女子ダブルス 2位	
北岡エリ子	文学部 2年(女子卓球部)
第78回 全日本大学総合卓球選手権大会(個人の部) 女子ダブルス 2位	
矢野美幸	文学部 4年(女子陸上競技部)
第80回 日本学生陸上競技対校選手権大会 女子400mハードル 優勝(大会新記録:57秒06)	
清水綾乃	商学部 3年(射撃部)
第24回 全日本女子学生ライフル射撃選手権大会 女子50mライフル伏射 60発(50mR P60W) 優勝 女子50mライフル3姿勢各20発(50mR3×20W) 優勝	

第58回 学員体育会賞

本賞は、体育の業績において優秀な成績を挙げた本学の学生、団体に対し授与するものです。

—特別優秀団体賞—

準硬式野球部

—優秀団体賞—

水泳部

スケート部

—努力団体賞—

射撃部

拳法部

女子卓球部

軟式野球部

—リレー賞—

陸上競技部

畠山 純 女部田 亮 河合 元紀 川面 聡大
 (男子4×100mリレー優勝:第90回関東学生陸上競技対校選手権大会)
 女部田 亮 川面 聡大 河合 元紀 飯塚 翔太
 (男子4×100mリレー優勝:第80回日本学生陸上競技対校選手権大会)
 加瀬 宏二郎 岩本 大志 鬼塚 祐志 木村 淳
 (男子4×400mリレー優勝:第80回日本学生陸上競技対校選手権大会)
 畠山 純 飯塚 翔太 女部田 亮 木村 淳
 (男子4×100mリレー優勝:第95回日本陸上競技選手権リレー競技大会)
 加瀬 宏二郎 飯塚 翔太 木村 淳 鬼塚 祐志
 (男子4×400mリレー優勝:第95回日本陸上競技選手権リレー競技大会)

水泳部

塩浦 慎理 宮本 淳平 水野 雄介 平 龍大
 (男子400mリレー優勝:第87回日本学生選手権水泳競技大会)

女子陸上競技部

矢野 美幸 米田 知美 吉良 愛美 清水 佳奈
 (女子4×400mリレー優勝:第90回関東学生陸上競技対校選手権大会)

—優秀選手賞—

陸上競技部	川面 聡大(法4)
水泳部	野沢 拓矢(経4)
水泳部	塩浦 慎理(法2)
バレーボール部	千々木 駿介(法4)
サッカー部	大岩 一貴(経4)
サッカー部	六平 光成(経3)
スケート部	水内 直人(法4)
自転車競技部	緑川 峻一(法1)
射撃部	山下 理貴(文5)

—体育賞—

陸上競技部	飯塚 翔太(法2)
水泳部	瀧口 陽平(法1)
バレーボール部	渡邊 奏吾(法3)
自動車部	光本 圭佑(法3)
女子陸上競技部	矢野 美幸(文4)
重量挙げ部	木下 竜之(商2)
射撃部	清水 綾乃(商3)

—努力賞—

ソフトテニス部	吉田 悠人(法2)
準硬式野球部	亀井 豪人(法4)
準硬式野球部	高野 桂(商2)
フェンシング部	深谷 晋良(法4)
スキー部	篠原 由馬(法1)
スキー部	宮本 慎矢(法1)
女子陸上競技部	米田 知美(文3)
女子陸上競技部	篠塚 麻衣(商1)
女子陸上競技部	赤井 涼香(文3)
女子陸上競技部	青木 栄美花(文1)
重量挙げ部	安江 勇輝(文3)
拳法部	浜田 翔平(法4)
女子卓球部	根本 理世(文3)
女子卓球部	北岡 エリ子(文2)
軟式野球部	滝口 紳太郎(商3)

—優秀監督賞—

準硬式野球部	池田 浩二
水泳部	高橋 雄介
スケート部	江守 秀次

—永年監督賞—

水泳部	高橋 雄介
ソフトボール部	鈴木 克彦

—学長賞—

陸上競技部	川面 聡大(法4)
水泳部	野沢 拓矢(経4)
水泳部	塩浦 慎理(法2)
バレーボール部	千々木 駿介(法4)
サッカー部	大岩 一貴(経4)
サッカー部	六平 光成(経3)
スケート部	水内 直人(法4)
自転車競技部	緑川 峻一(法1)
射撃部	山下 理貴(文5)
射撃部	清水 綾乃(商3)

第29回 学員会会長賞

本賞は、本学在学生のうち学術、文化、社会等の活動を通じて優秀な成果を収めた者に授与するものです。

—学術・文化・社会の分野(団体)—

横山彰ゼミ観光復興班	総合政策学部
公共選択学会の第14回学生の集いにおいて、2年共通テーマ優秀賞を受賞した。ISFJ日本政策学生会議の政策フォーラム2011において、優秀賞と政策提言賞(特別賞)を受賞した。	

FLPジャーナリズムプログラム松野良一ゼミ FLP(ファカルティリンケージ・プログラム)
①大韓航空機 007 便墜落事件の遺族の証言を記録した「証言集」が『中央評論』(中央大学中央評論編集部 63 巻 3 号 [No.277]) に収録された。また、この取り組みが読売新聞 (2011 年 12 月 21 日) で紹介された。②ドキュメンタリー『硫黄島から戻ったイチョウ』を製作し、ヒューマン DF プロジェクトの 2011 年ヒューマンドキュメンタリーコンテストにおいて入賞、「地方の時代」映像祭実行委員会の第 31 回「地方の時代」映像祭において、市民・学生・自治体部門 優秀賞、市民がつくる TVF (東京ビデオフェスティバル) 2012 において優秀作品賞を受賞するなど多数の賞を受賞。読売新聞 (2011 年 8 月 27 日朝刊)、東京新聞 (2011 年 8 月 16 日夕刊) でも紹介された。
ChuoSupport3.11
東日本大震災の被災地 (仮設住宅) において、継続的なボランティア活動を行い、現地の人々からの信頼を勝ち得ている。また震災やボランティアに関心をもつ学生たちとネットワークを構築し、中央大学におけるボランティア文化の構築に寄与した。気仙沼での活動の一部は、TBC 東北放送「絆みやぎ」(2012 年 1 月 7 日放送)、NHK 全国ネット「おはよう日本」(2012 年 1 月 17 日放送) で紹介された。

— 学術・文化・社会の分野 (個人) —

横田 伶緒	法学部 2 年 (辞達学会)
尾崎行雄を全国に発信する会の第 9 回尾崎行雄 (罌堂) 杯演説大会において最優秀賞を受賞した。	
五十嵐 淑人	大学院理工学研究科博士課程前期課程
公益社団法人 日本冷凍空調学会の 2011 年度日本冷凍空調学会において、会長奨励賞を受賞した。	
小林 大夢	大学院理工学研究科博士課程前期課程
IEEE IES の HSI2011 において、Best Paper Award および Best Presentation Award を受賞した。	
坂本 順	大学院理工学研究科博士課程前期課程
社団法人 日本音響学会の 2011 年春季研究発表会において、学生優秀発表賞を受賞した。	
小川 曜義	大学院理工学研究科博士課程前期課程
CLAWAR Association の CLAWAR2011 において、Best Technical Paper Award 内の Highly Commended Paper Award を受賞した。	
石田 淳一	大学院理工学研究科博士課程前期課程
IEEE Signal Processing Society の MMSP2011 において、Top 10% Paper Award を受賞した。電子情報通信学会画像工学研究会の第 26 回画像符号化シンポジウム第 2 回ポスターセッションにおいて、ベストポスター賞を受賞した。	
水津 太一	大学院理工学研究科博士課程前期課程
電子情報通信学会 VLSI 設計技術研究会のデザインガイア・ポスター賞選奨実行委員会において、デザインガイア・ポスター賞を受賞した。	

梓田 和希	大学院理工学研究科博士課程前期課程
ヨーロッパ材料学会連合 (FEMS) ・ フランス冶金材料学会 (SF2M) ・ イタリア冶金協会 (AIM) の EUROMAT2011 において、Poster Award を受賞した。電子情報通信学会 磁気記録・情報ストレージ研究専門委員会の研究会において、磁気記録・情報ストレージ研究専門委員会委員長賞を受賞した。	
野中 雄介	大学院理工学研究科博士課程前期課程
電子情報通信学会 磁気記録・情報ストレージ研究専門委員会の研究会において、磁気記録・情報ストレージ研究専門委員会委員長賞を受賞した。	
藤田 将太	大学院理工学研究科博士課程前期課程
電子情報通信学会エレクトロニクスソサイエティの電磁界理論研究専門委員会の研究会において、電磁界理論研究会学生優秀発表賞を受賞した。	
中林 拓也	大学院理工学研究科博士課程前期課程
IUPAC の 14th International Symposium on Molecular Complexes において、IUPAC Poster Prize を受賞した。	
澤井 庸平	大学院理工学研究科博士課程前期課程
応用統計学会の応用統計学会年会ポスターセッションにおいて、優秀ポスター発表賞を受賞した。	
清家 陽佑	大学院理工学研究科博士課程前期課程
一般社団法人 地理情報システム学会の 2011 年度 第 20 回地理情報システム学会学術研究発表大会において、大会優秀発表賞を受賞した。	
朴 喜媛	大学院理工学研究科博士課程後期課程
Joint Meeting of the Korea-Japan Conference of Computational Statistics において、Best Presentation Award を受賞した。	
保科 架風	大学院理工学研究科博士課程後期課程
統計関連学会連合の統計関連学会連合大会において、最優秀報告賞を受賞した。	
清水 健太	大学院理工学研究科博士課程後期課程
公益社団法人 日本化学会の第 1 回 CSJ 化学フェスタ - 2011 世界化学年記念大会において、優秀ポスター発表賞を受賞した。	

— スポーツの分野 (団体) —

準硬式野球部	水泳部
スケート部	陸上競技部

— スポーツの分野 (個人) —

川面 聡大	法学部 4 年 (陸上競技部)
野沢 拓矢	経済学部 4 年 (水泳部)
塩浦 慎理	法学部 2 年 (水泳部)
千々木 駿介	法学部 4 年 (バレーボール部)
大岩 一貴	経済学部 4 年 (サッカー部)
六平 光成	経済学部 3 年 (サッカー部)
水内 直人	法学部 4 年 (スケート部)
緑川 竣一	法学部 1 年 (自転車競技部)

山下 理貴	文学部 5年(射撃部)
清水 綾乃	商学部 3年(射撃部)

後藤 絵理奈	理工学部 4年
--------	---------

フランス語文学文化専攻に在学の四年間、意欲的に、また楽しんで学業に取り組み、非常に優秀な成績を修めました。所属するゼミでも、入念な準備をして授業に臨み、フランス語の読解力を磨くとともに、扱われるテキストの文化的背景にも強い関心を示し、他学生の模範となっていました。卒業論文は、アール・ヌーヴォーに与えた日本文化の影響について考察してくれましたが、日本美術、アール・ヌーヴォーの美術作品を注意深く検討するのみならず、当時のフランスの美術批評家たちの言説にも目を配り、しかも自分なりの視点をしっかり打ち出した力作を仕上げてくださいました。卒業後も、ものごとに丁寧に取り組みつつ、自分なりの視点を打ち出そうとする積極的な姿勢を生かし、活躍してくれると期待しています。

第26回 南甲倶楽部賞

本賞は、学員会南甲倶楽部が、毎年卒業する学生のうち、学力優秀にして学問研究、文化活動、体育活動及び社会活動などの分野において顕著な成果を挙げ、本学の名声を高めるとともに本学の発展に寄与した者を対象に授与するものです。(南甲倶楽部は実業界で活躍するOBが組織する団体)

清田 萌生	法学部 4年
-------	--------

法学部卒業生の中で、在学中の学業成績が優秀でありかつ所属ゼミでの活躍も顕著で、指導教員及びゼミ生からの信頼も厚い。

矢吹 優	法学部 4年
------	--------

在学中に優秀な成績を残し、経済学部経済学科卒業総代に選ばれた。経済学部4学科の卒業総代の中でも最優秀の学業成績であり、学部学生の模範となるに相応しく、南甲倶楽部賞受賞候補者として適格であると判断されたため。補足:・ヒューマンエコノミークラスター修了・経済学部成績優良者奨学金受給・経済学部キャリアガイダンスの行事において、就職内定者の一人としてガイダンスを担当し、後輩の良きアドバイザーとしても熱心に取り組んだ。

藤元 絵美里	経済学部 4年
--------	---------

本年度商学部卒業生の中で学業成績が優秀であり、ゼミにおいても熱心に取り組んできた。人物面も良好であり、指導教員及びゼミ生等からの信頼も厚い。また、難関とされる公認会計士試験に在学中に見事合格した。

齋藤 宏	商学部 4年
------	--------

学部4年間を通して、常に優秀な成績を維持してきました。彼が所属する情報工学科が、企業・卒業生の協力を得て実施している画像コンテンツ演習では、作品の完成度と報告の質の高さは群を抜いていました。また、卒業研究では「後楽園キャンパスにおける消費電力量の分析と予測」に取り組み、データを収集し、大学固有の活動を分析し、数理的手法と非常に優れた想像力をもってモデルを導き、省電力化への提案を行いました。その内容は、情報工学科のweb page「復興の新ヒントを探る」でご覧頂くことができます。(http://www.ise.chuo-u.ac.jp/ISE/outline/Gmajor/setsuden/index.html) 何事にも真面目に取り組むこと、人から期待されていることを感じ取ってそれに応えることを心がけています。勉学においても友人関係においても評価は非常に高く、彼のモットーが着実に身につけていることが感じられます。卒業後企業に就職してからも、常に学び続けることによって、社会からの期待に充分応えていくことができる人材であると確信しております。

田中 佑季

事例研究(ゼミ)で3年間にわたって、様々な社会問題に関する理論を学びつつ、現実の問題を調べるための社会調査法の技術を磨いてきました。その知識と技術の集大成である卒業論文では、「ほめる」という日常の中でよくみられる行為が、人間関係のなかでいかに機能しているのかを明らかにしました。とりわけ法則探究の道具としての社会調査を駆使し、アンケート調査によって得られたデータを用いて多変量解析を行い、対象とする問題の解決に寄与する知見を得ることができました。またゼミの活動においては、統計的手法を後輩にレクチャーするなど、彼女の熱意や努力の姿勢が多くの後輩たちの素晴らしい模範となっています。

第7回 東京白門ライオンズクラブ学術奨励賞

本賞は、東京白門ライオンズクラブが、有為な人材の育成に資することを目的として、博士課程前期課程・修士課程に在学する外国人留学生のうち、優秀な成績をもって課程を修了し、かつわが国と出身国を結ぶ架け橋として活躍が囑望される者に授与するものです。

NGUYEN PHUONG CHAM THI (ニユイン フォン チャンティ)
大学院法学研究科博士課程前期課程

「新株有利発行による既存株主の財産的損失と事後救済措置の実効性」について、優秀な修士論文を提出するに至った真摯な研究態度と、粘り強くテーマを煮詰めていく研究能力を高く評価する。また、前期課程修了後は本学後期課程に進学するとともに、ハノイ国家大学法学部の専任教員に就任することにより、日本とベトナムとの架け橋として活躍することが十分に期待できる。